

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 2月 27日

事業所名 コネクト

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		曜日によって活動場所を振分けている	下校後の着換えの際にカーテンで仕切るため、稀に死角が生まれる場合があるので、職員の配置場所にも注意していきたい
	2	職員の配置数は適切である	○		利用者の特性に応じてシフトを組んでいる	支援の充実化、職場環境に必要なゆとりを作るためにも、職員の増員を図りたい
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	利用者、保護者からも要望を聞いている	バリアフリー化が進んではいるが、まだ適切とは言えない箇所があるので、今後も進めて行く
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		個別ケース会議の実施	職員同士で、利用者との関わりを話し合う機会を設けている
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		毎年アンケートの集計後に会議を実施している	アンケートを出して頂けない保護者にも積極的にコミュニケーションを図り、要望等を伝えやすい信頼関係の構築にも力を入れたい
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			ホームページの更新のスパンが不規則なので、更新期間を設定し、情報発信をして行く
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		外部機関にも自己評価の結果を見てもらい、助言等をもらう機会を設けられないか検討して行く
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		インターネットや事業所と情報交換	各機関からの案内を始め、資質向上につながる研修には積極的に参加を促して行く
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		アセスメント前にケース会議の実施	前回のアセスメントからの変更点や、家庭・学校での様子を共有し、短期目標・長期目標を設定している
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		随時意見を取り入れ更新している	ベースとなるアセスメントツールを使用しているが、定期的な見直しが必要 状況把握の充実につなげて行く事が重要
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		全職員で話し合う場を設けている	月単位で案を出し合い、意見等を反映させて立案している
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		利用者からも意見を聞いている	毎年新しい取り組みに挑戦し、利用者の意見・要望全職員での話し合い、目的の設定、安全確保を確認し合い、計画を立てて行く
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		個別ケース会議での現状と課題の把握	長期休暇は利用頻度に応じて、平日取り組めない課題を設定する
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している		○	長期休暇中の活動をグループ化して実施している	集団活動に参加できない利用者の計画を更に充実させる必要があるため、個々の特性に応じて計画を立てPDCAサイクルの徹底を図りたい
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		日替わりでリーダー職員を選定	プログラム確認、役割の確認 ねらい等を職員間で支援前にミーティングをしている
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		フォーカス記録翌日の朝礼時に前日の振り返り	利用者によってフォーカス記録に差がある(利用頻度が異なるため)ので、利用頻度の少ない利用者の気づき等をしっかりと共有していく必要がある
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録業務の時間を確保している	その日一人一人の活動の様子、気づき、共有事項をフォーカスに記録し、次の課題を設定している
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		職員会議の実施	職員間で話し合いを設けて、「達成」・「継続」・「変更」の必要性を判断している
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		社内研修でのガイドライン活用	職員一人一人がガイドラインの把握に努め、身辺自立を含め、個々の利用者の自立を目指した関わりを極力一貫性を持って実践して行く	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者がサービス担当者会議に参加している 状況に応じて保育士、児童指導員も参加している	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	各学校の先生ともコミュニケーションを積極的に取っている	保護者だけでなく、日頃から学校の先生とも積極的にコミュニケーションを図り、連絡調整がしやすい環境作りを心掛けている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		医療ケアを要する子どもの受け入れはしていない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			保育所等訪問支援事業所との連携を図っており、情報交換している 今後も充実させて利用者の支援の内容の向上に努めたい
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			保護者の同意を得た上で、適宜必要な情報を提供する
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		現在は実施していないが、今後病院等の専門機関からも助言や研修を受ける機会を設けていきたい
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	児童センターでの活動計画を作成	定期的に児童センターでの活動を計画しており、障がいのない子どもとの活動が前提ではないが、結果的に交流している事がある 頻度を増やすか検討している
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			子ども部会へは毎回参加するよう調整している
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時に保護者と会話をすることを心掛けている	毎回、連絡帳にて子どもの様子及び、保護者とのコミュニケーションツールとしても活用し、共通理解を図っている
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	職員研修の中でペアレント・トレーニングを取り入れている	現在は不十分であるが、職員研修への盛り込み、職員にカウンセリング資格の受講を実施している	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約時に丁寧な説明を実施している	運営規程、支援の内容、方針については契約時に特に丁寧な説明を心掛け、利用者負担についても具体例を挙げながら説明させていただいております	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	要望・相談シートを設置している	随時対応できる体制を取り、受け付けた内容は職員ミーティングで共有・議論し、必要な助言を行うようにしています	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	場所や内容を毎回変えている	現在父母の会はありませんが、保護者会・交流会という形で毎年開催しております	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	要望・相談シートを設置している	要望や相談として受け付けているものばかりですが、迅速に対応させていただいております	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	お便りを事業所玄関にも掲示して紹介している	毎月「お便り」を発行しており、行事内容等を事前にわかりやすくお知らせできるよう努めております	
	35	個人情報に十分注意している	○	社内ミーティングでの周知徹底を図っている	全利用者様を含め、職員・関係者の個人情報については細心の注意のもと取り扱っております	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	情報伝達手段を多く準備している	特性に応じて、その子に合った伝達手段の模索をしながら「伝える力」の育みに力を注いでおります	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	定期訪問等を積極的に計画	季節にちなんだ行事(ハロウィン・餅つき等)開催時は近隣の病院、事務所、住宅を訪問し、交流の機会を設けております	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		職員への周知はできているが、保護者様への周知が不十分だと考えており、周知方法や、事業所内の掲示方法を検討しております
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎回実施曜日を変え利用者の構成毎に訓練を実施している	1年に2回以上の訓練を、消防署へ届出の元実施しております
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		職員会議での議題化新聞・ニュース記事の活用	外部研修の後、必ず全職員を対象とした内部研修を実施している。虐待防止については特に意識しており職員間でも意見交換をしています
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		身体拘束を行う際の必須要件等を会議で確認している	面談及び契約時に身体拘束の可能性がある子どもについては、詳細を保護者様に説明する事になっている。現在該当する利用者はありません
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	契約時にアセスメントを作成し、保護者様に確認している	医師に指示を仰いだケースはなく、全利用者様に契約時にアセスメントシートで確認している。特に注意を要する子どもの場合は、協力医療機関に指示を仰ぐ
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		記録に残しやすいよう設置している	ヒヤリハットは事故を防止する上で貴重な材料になると考えており、記録を積極的に残すよう推奨している事例が上がった際は随時職員会議に挙げています